フィールド（現場）からの風 309

宮田守男

大北地域は「まず汗をだせ」が求められる産業が地域を担っている

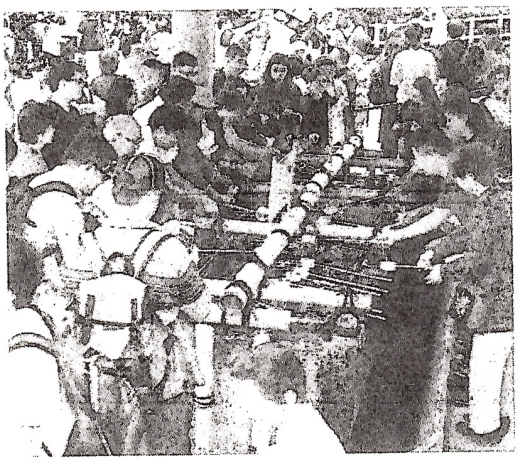
9月中旬、山口新聞のコラム四季風に、一代で世界的な家電企業を築いた「経営の神様・松下幸之助」の「まず、汗を出せ、汗の中から知恵を出せ、それができない者は去れ」。どんなに知恵のある者でも、まず汗を流せ、本物の知恵は、そこからこそ生まれてくるのだと。もちろん「汗を出す」は骨身を惜しまず働く意味だ。との経営哲学が伝えられ、現状の働き方改革の意識が先行した「効率よく」の考え方へ警鐘を伝えた。

身近な大北地域の観光施策の展開から「汗を出す」取り組みが真剣にされているか、との声が多くの人から聞こえてくる。他人任せの知恵ではなく「汗の出し方」が伝わってくる行動に注目したい。そのためには、今後地域を担う世代に、多くの現場を体験させ、大北地域で通用する取り組みを考えさせることだ。

9月下旬の関西の旅でも多くの知恵を学ぶ事が出来た。京都では、和服姿の観光客が目立つ。「日本で1番きもの姿が映える街」と尋ねられると、約9割の答えが「京都」。約95％の着物問屋が集結する京都。和装小物専門店や多くの着付師との連携で「着物レンタル」が大繁盛。内容によっては2000円からでも体験できるシステムも話題で、多くの着物レンタル店が目に付く。10代・20代の若い女の子から、幅広い年代が着飾る外国からのお客様。新婚旅行の日本での記念の為か、結婚衣装でカメラ撮影を楽しむカップル。本人たちも楽しそうだが、それを眺める観光客も華やかな街を楽しんでいる。着物関連の業界も潤い、特に地域がお金を出して地域活性化をしている訳でもない。

何か大北地域全体に映える面白い知恵は無いだろうかと思ってしまう。千本鳥居で有名な「伏見稲荷大社」全国に約3万社あるとされる稲荷神社の総本社だ。交通の便も良い事から、押すな押すなの参拝客が訪れていた。修学旅行の高校生に「お寺と神社はどう違うの」と質問してみると、お寺は「合掌」、神社は「再拝二拍手一拝」の答え。事前学習で参拝の作法を習ったような答え。まず「何を拝むか」が大きな違いだよ。との答えには無関心。神社仏閣が観光施設との捉え方なのだろう。大北地域内の神社仏閣の維持管理も大きな課題。地域全体の神社仏閣を活用する知恵で貴重な地域資源を存続できないのか、と考えた旅でもあった。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）



伏見稲荷神社の手水作法、手順通り行いたいと大混雑